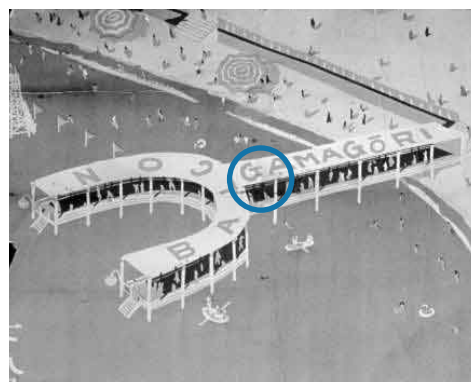




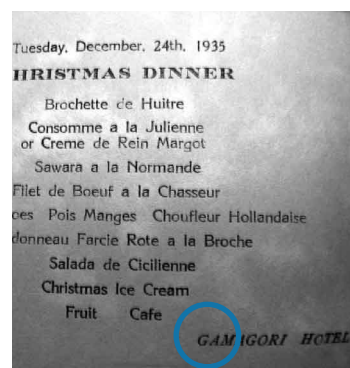
『観光の蒲郡』表紙

光地・竹島を大いに宣伝しました。昭和7年に竹島橋が完成し、昭和9年には、竹島対岸に蒲郡ホテルが建てられました。鉄道省による第1回国際観光ホテルの指定を受けた同ホテルには、この年の9月30日にアメリカの記者団が宿泊しています。その時にホテル専務取締役と蒲郡町長の連名による「歓迎の辞」が日本語版と英語版で作成されていますが、『蒲郡町長』は「Mayor of Kamagori Town」、ホテルの名前も同じく《K》になっています。この時はどちらも《かまごおり》でした。



名古屋鉄道局ポスター（部分）

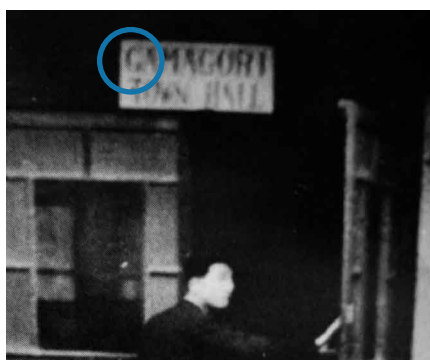
ところが、翌年の昭和10年のクリスマスデザイナーの献立には「GAMAGORI HOTEL」となっています。昭和初期の観光ポスターに描かれたバルコニーの屋根は「GAMAGORI」。蒲郡ホテルに関しては、この時期を境に《K》から《G》に変わったのではないかと考えられます。



蒲郡ホテルのクリスマスディナーメニュー（部分）

蒲郡町の場合

さて、町名の方をみてみますと、終戦後間もないころの役場入口に、英語で「GAMAGORI TOWN HALL」と書かれた看板が掛けられている写真があります。



蒲郡町役場
（『蒲郡』蒲郡郷土史研究会より）

ところが、昭和49年4月6日付蒲郡新聞には「昭和29年の合併時の県公報で蒲郡町・三谷町・塩津村を廃し蒲郡市を置くと発表した2日後《がまごおり》町は《かまごおり》町の誤り、という訂正が出た」という記事が掲載されています。実際に県公報を確認したところ、昭和29年3月20日付第3494号では「蒲郡町」に《がまごおり》とルビが振られていました。が、3月25日付第3496号で確

かに訂正されていました。しかし「^{がまごおり}蒲郡市」についてのルビの訂正はありませんでした。

つまり、今から50年前の昭和29年4月1日に合併するまでは、自治体名としての《蒲郡》は《かまごおり》であり、市制施行と同時に、正式に《がまごおり》になったというわけです。

《かま》から《がま》へ

《蒲郡ホテル》と《蒲郡町》の読み方については、このように、ある程度資料で確認することはできますが、実際の日常会話において、いつごろまで《かまごおり》が優勢だったのか？また、学校名や会社名で《がま。》という呼び方をするところは多いけれども、それも最初は《かま。》だったのか？疑問はいろいろ尽きません。資料や情報をお持ちの方は、ぜひ、博物館までお寄せください。

今回の「海辺の館のつとておきは、科学館、水族館、博物館の3館合同でお送りいたします。お楽しみに。」

蒲郡市博物館
学芸員 小田 美紀